地域特集 Excellent community

エクセレント・コミュニティ【第4回】

山形県 鶴岡市

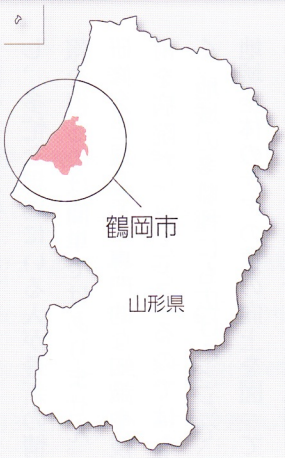
鶴岡市は豊かな自然に恵まれている

市西部の名所由良海岸

指定有形文化財である大宝館。
藤沢周平や横光利一など鶴岡市の発展に
深いかかわりのある先人の業績を紹介している

山形県西部に位置し、月山、羽黒山、湯殿山の出羽三山や庄内平野に潤いをもたらす赤川など、豊かな自然を有する鶴岡市。2005年に旧鶴岡市と周辺5町村が合併したことで、東北地方で最も広い面積を誇ります。そんな鶴岡市では、地域の高齢者を支えるために行政と医師会が連携しながら、地域全体の医療と介護の質の底上げや多職種協働の連携体制づくりを展開しています。

【地域DATA】
- ●面積：1,311.51㎢
- ●人口：13万6,146人
  (男：6万4,892人、
  女：7万1,254人)
- ●世帯数：4万7,724世帯
  (2012年3月末現在)
- ●高齢化率：28・9%
  (2012年3月末現在)



多職種による連携の土台となる顔の見える関係づくりに尽力する

地域の多職種の連携を促す連携拠点事業室「ほたる」

「超高齢社会を迎えた日本においては、病院医療から在宅医療への転換が喫緊の課題となっています。在宅医療では、医療や介護、福祉、地域コミュニティなどによる包括的な支援が継続的に提供されることが必要で、その実現には医師のみならず、看護師、介護関係者、薬局、歯科医師、栄養士などとの連携による多職種協働が不可欠です。この連携体制をつくっていくためには、何よりも相互理解を深めること。つまり、お互いに〝顔の見える関係づくり〟が重要です」と語るのは、社団法人鶴岡地区医師会の三原一郎会長です。

社団法人鶴岡地区医師会の三原一郎会長

同医師会では、居宅介護支援事業所や訪問看護ステーション、介護老人保健施設、地域包括支援センターを運営するなど、古くから行政と連携しながら、地域の高齢者が保健・福祉・医療を包括的に受けられる環境づくりに取り組んできました。

昨年は、さらに地域内の多職種の連携の充実を図るべく、そのコーディネート役としての拠点を置き、多職種協働による在宅医療の支援体制の構築や、今後の政策立案や均てん化（どこでも標準的な専門医療が受けられるための、医療技術などの格差の是正）などに資することを目的とする在宅医療連携拠点事業を受託し、医師会内に連携拠点事業室「ほたる」を設置しました。ここでは①多職種を対象とした研修会や意見交換会の開催、②ケアマネジャーと医師との話し合いの場を広げるための連携シートの作成、③相談窓口の設置、④ショートステイ空き情報のホームページでの提供、⑤パンフレットやホームページさらには各種イベントでの広報活動、⑥在宅口腔ケアの普及に向けた歯科医師会との話し合い、⑦行政や包括支援センターとの定期的なミーティング、⑧地域版電子カルテNet4Uの介護系への普及――などさまざまな活動を行ってきました。

「異なる組織に所属するさまざまな専門職が顔の見える関係をつくるためには、まず顔を合わせる場づくりが必要になります。これの役割を果たしてくれているのが、多職種を対象とした『ほたる多職種研修会』と『意見交換会』です」と話す三原会長。ほたる多職種研修会とは、地域における多職種協働による在宅医療の支援体制を構築するため、鶴岡地区にある医療・介護の技術と知識の標準化をめざすさまざまな職種を対象とした研修会で、昨年度は4回開催されました。研修会の内容は、特定の看護分野について優れた知識と熟練した看護技術を持つとして日本看護協会に認定された認定看護師が講師を務めた褥そうの予防や対策、感染症対策などのほか、地域で活躍しているケアマネジャーによる医療と介護の連携なども取り上げられました。

連携拠点事業室「ほたる」の職員

「医療や介護の分野では常に新しい知識や技術が生まれています。しかし、多忙な現場にいる人が最新の情報を得るのは簡単ではありません。研修会を通じて、専門的な知識や技術を病院だけにとどめるのではなく、地域の多職種にも広げることで、地域全体のケアの質の向上を図っています。また、病院では在宅医療の

視点が欠けているという課題があったため、主に救急医療をはじめとする急性期の医療を担う病院の看護師を対象にした、医療と介護の連携をテーマにした会も開催し、ケアマネジャーの役割や、介護側から病院に望んでいることなどを伝えました」と自身も看護師である、ほたるの島貫設子さんは説明します。

多職種研修会には医師や看護師、薬剤師、ケアマネジャー、介護福祉士、リハビリスタッフなど、現場で医療や介護に従事している人たちが延べ約３３０人も参加しました。参加した人たちからは「多職種が一緒に研修することで、情報共有が進み、現場での仕事がしやすくなりました」「介護職も含めた連携の重要性を再確認することができました」「研修会で学んだ新しい知識を日常業務に活かすことでケアの質を高めていきたい」といった声が上がるなど高い評価を受けています。

「目的は認定看護師などが持っている専門的な知識やスキルを地域全体に広げていくことですが、講師を務めているのは実際に現場で医療や介護に従事している地域の人たちですので、困ったことがあれば、この人に相談すればいいという、ある意味相談窓口を知らせることにもなります。これによって、認定看護師というリソースを地域全体で共有できるわけです。多職種研修会は、地域の関係者同士がお互いを知ることのできる場としても有意義だと感じています」と三原会長は強調します。

アンケート調査を実施して連携の問題点を明確にする

地域全体の医療と介護の円滑な連携を図るため、医師会では行政との連携にも積極的に取り組んでいます。その一つがケアマネジャーと医師との話し合いの場を広げるための連携シートの作成です。

これは鶴岡市地域包括支援センター連絡会からの依頼を受けて、ほたるが窓口となって、小児科を除く市内の全医療機関に対し、相談しやすい曜日や時間帯、電話やＦＡＸ、メール、面談などの連絡・相談方法、サービス担当者会議の開催場所の指定など、ケアマネジャーとの連携方法についての希望に関するアンケート調査を実施し、その結果に基づいて地域包括支援センターと一緒に作成したシートです。１枚のシートに医療機関に所属する医師それぞれの要望がまとめられているので、たとえば、希望する時間は月火水の午後４時以降、連絡方法は電話、サービ

在宅療養者支援のための連携シート

医療機関情報

区分

医療機関名		診療科	
医師名		住所	
TEL		FAX	

1．サービス計画書作成にあたってケアマネジャーが主治医に相談することについて
（1）相談方法
（1）その他
（2）相談しやすい曜日・時間

月	火	水	木	金	土	日

（3）本人または家族の同意書は必要か
2．サービス担当者会議について
（1）出席できますか
（2）①連絡日　（2）②開催場所
（2）③サービス担当者会議に出席しやすい曜日・時間帯

月	火	水	木	金	土	日

（3）欠席時の照会方法
3．ケアマネジャーから提供してほしい書類
4．ケアマネジャーに患者さまのことで問い合わせが必要な場合
5．在宅時医学総合管理料（医療保険）
6．居宅療養管理料
7．（入院機関）ケアマネジャー連携指導加算
8．診療時間外に連絡を要する場合の対応について
9．ケアマネジャーに対する意見、要望、連絡事項等
１０．その他、在宅療養者支援についての意見

医師とケアマネジャーの円滑な連携をサポートする連携シート

短期入所空き情報　6月18日（月）～7月15日（日）　事業所名

6月													7月													
日	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
曜日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
空き状況																												

○…十分に利用ができる（3名以上）　△…多少の空きがある（1～2名）　×…短期入所サービスの空きなし

付記

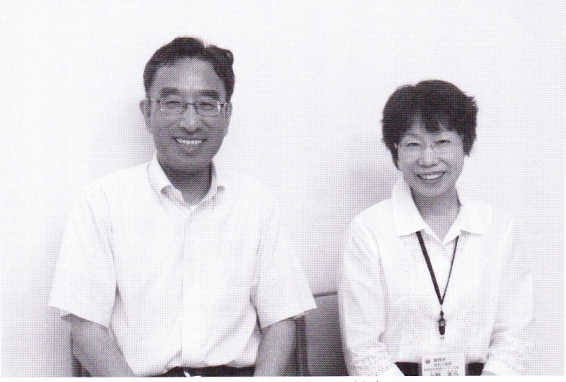
鶴岡地区医師会　在宅医療連携拠点事業室ほたる行き　FAX　0235－29－3022

このシートを使って「ほたる」の職員がショートステイの空き状況を確認している

ス担当者会議は利用者宅となっていれば、ケアマネジャーはこれを確認しながら、火曜日の午後4時に電話をするといったように、医師の希望に沿った時間、方法でアプローチすることでスムーズな連携を図ることができます。連携シートは市内の居宅介護支援事業所に配布しています。

鶴岡市健康福祉部長寿介護課主査で鶴岡市地域包括支援センターに所属する保健師の叶野真弓さんは次のように振り返ります。

「多忙な医師や病棟のおかれた状況がわからなかったため、以前はケアマネジャーが自分の都合で連絡してしまっていました。そのため、『一番忙しい時間に電話されても困る』と跳ね返されてしまうことがありました。その結果、ケアマネジャーの側には連絡しても対応してもらえない、相談しても乗ってくれない、医師の側にはこちらのことを考えずに一方的に連絡してくるとお互いが不快感を持つこともありました。連携シートを作成したことでケアマネジャーは医師の状況を確認したうえで連絡ができるようになりました」


鶴岡市地域包括支援センターの菅原繁さん(左)と保健師の叶野真弓さん(右)

アンケート調査を行ううえでは、ほたるの協力が大きかったと言います。これについて三原会長は「アンケートを送る医療機関は医師会の会員ですので、医師会が全面的にバックアップすることで回答率が上がったり、円滑に進めることができた部分はあったと思います。医療と介護の連携と言われますが、これまで医師の多くはケアマネジャーとコンタクトする機会が非常に少なかったこともあり、ケアマネジャーの仕事の内容や役割、ニーズ、連携することの重要性について理解していない部分があります。この連携シートが両者をつなげる一つのきっかけになればと期待しています」と語ります。

今後はさらなる利便性の向上を図るため、連携シートのデータベースを使って、インターネットでも検索できるようなサービスも考えているそうです。

ショートステイの情報提供で介護家族やケアマネを支援する

鶴岡市の高齢化率は28・9%(2012年3月末現在)で、要介護認定率は20・2%。いずれも全国平均を大きく上回っていますが、高齢者のみ世帯と高齢者独居世帯を合わせても約15%と、多世代同居率が高いという特徴があります。加えて、同市では00年の介護保険制度のスタート以前からホームヘルプ事業やショートステイ事業に力を入れてきたこともあり、在宅で療養する環境の基盤は整備されていました。

それでも老老介護の家庭などでは、負担が大きいのも事実です。こうした家族に休息を与えるために患者を一時期預かってもらえる、ショートステイ先をケアマネジャーが探しやすいよう、ほたるでは、市内の施設からショートステイの空き状況に関する情報をFAXで取り寄せ、ホームページで提供しています。

「取り組み自体は珍しいことではないですが、失敗しているケースが多いと思います。理由は施設に情報提供を一任してしまっていることや、相互理解がないことではないでしょうか。ほたるでは、情報提供を始めるにあたって、職員がショートステイを行っている市内の全施設に訪問し、趣旨を説明して歩きました。その結果、『空室の情報提供は電話連絡やその対応に追われないため、ケアマネジャーと施設の両者が楽になる』と認識してもらえましたし、足を運んで話をすることで、ここでも顔の見える関係がつくれました。また、FAXでの情報提供がない時には必ず電話でアプローチするなど責任を持って管理しています」と三原会長は胸を張ります。

そのほか、ほたるでは歯科医師会と連携した、口腔ケアにも取り組んでいます。具体的には患者の家族や訪問看護師や介護職などが、口の中を診てもらった方がいいとかかりつけ医に相談すると、ほたるの口腔ケアの相談窓口に連絡がいき、そこから歯科医師会に依頼をして歯科医師を派遣してもらうという流れになります。

「寝たきりや誤嚥性肺炎を防ぐうえで、口腔ケアは非常に重要な取り組みですが、全国的に遅れています。

歯科医師会と話し合った結果、多くの歯科医が在宅における口腔ケアに携わる意思を持っていることがわかり、在宅医療を支えるチーム一員として加わってもらうことになりました」と三原会長は話します。

多職種協働の連携のカギを握るには医師の意識

鶴岡市地域包括支援センターにおいても、行政職員やケアマネジャー、病院の地域連携室職員、医師会の職員などで、医療介護連携推進企画会議を結成し、医療と介護の連携の促進に取り組んでいます。健康管理センターや居宅介護支援事業所などを運営していたため、従前から医師会と地域包括支援センターの職員の間では顔の見える関係ができていたそうです。

鶴岡市地域包括支援センター所長補佐の菅原繁さんは「以前は医師会の在宅介護支援センターと鶴岡市地域包括支援センターが同じ建物内にあったこともあって、いつでも相談できる関係でした。医師会は介護側に歩み寄ってくれますし、いい意味で敷居が低い。相談しやすいし非常に心強い存在です。在宅医療や介護は多職種がフラットな関係でチームを組む必要がありますが、同時に医師によるリーダーシップの重要性も実感しています」と話します。

一方、叶野さんは「医療介護連携推進企画会議では、在宅での療養を支える居宅介護支援事業所、患者さんを受け入れる病院が一堂に会して、地域の高齢者のためには必要なサービスについて議論してきました。病院や診療所、介護事業者それぞれがニーズを持っていましたので、集まっただけで自然と話は進んでいきました。多職種が介する場を設ければ自然と顔の見える関係づくりと、その先にある連携は進んでいくと思います。医師会には医療の側から、地域包括支援センターは介護の側からこうした連携の輪を広げていければと思います」と意欲を語ります。

医師会では、登録している医療機関同士で患者の検査や処方薬などの情報を共有している電子カルテ「Net4U」を介護事業者にも一部使えるようにするなど、多職種協働による業務を円滑に進めるための体制づくりには余念がありません。それでも「まだまだ課題は多い」と言う三原会長。全国的に課題となっている多職種協働による医療と介護の連携体制の構築については次のようにメッセージを投げかけます。

「有するリソースが違いますので、地域ごとに考えていく必要があると思いますが、最も重要なのは顔の見える関係づくりです。ただ、これを進めるうえで、最も大きな障害になるのは医師の意識かもしれません。それだけに医師会の果たす役割は大きくなっていくと思います」

鶴岡市における医療と介護の連携に関する取り組みの動き

2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
医療機関との連携方法のまとめ作成	医療依存度の高い人の受け入れ施設一覧表の作成	※医療と介護の連携研修会開催準備会議（2008年12月4日、19日）	医療と介護の連携研修会開催準備会議	医療と介護の連携研修会開催準備会議	医療と介護の連携研修会開催準備会議
		第１回医療と介護の連携研修会 2009年2月27日（ワーキング）	第２回医療と介護の連携研修会 2009年7月29日（シンポジウム）	第４回医療と介護の連携研修会 2010年8月5日（事例をとおして）	第６回医療と介護の連携研修会 2011年8月4日（ロールプレイ）
			第３回医療と介護の連携研修会 2009年12月3日（ワーキング）	第５回医療と介護の連携研修会 2010年11月24日（事例報告とグループワーク）	第７回医療と介護の連携研修会 2011年11月18日
			入院前報告書の作成（2009年4月）	入院前報告書の活用	入院前報告書の活用
			医師、薬剤師等７団体の「鶴岡地区地域医療福祉連携活動報告会」（2010年3月）	医師、薬剤師等７団体の「鶴岡地区地域医療福祉連携活動報告会」（2011年3月）	医師、薬剤師等７団体の「鶴岡地区地域医療福祉連携活動報告会」（2012年3月4日）
				包括職員が緩和ケア庄内プロジェクトの運営メンバー	包括職員が緩和ケア庄内プロジェクトの運営メンバー
					荘内看護専門学校における医療と介護連携の講義の担当
					在宅療養者のための連携シートの作成
					Net4Uのケアマネジャーに対する活用支援

医師会の１階部分に居宅介護支援事業所があり、ここでも医師とケアマネジャーの意見交換は活発に行われている